

令和 2 年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人守山市文化体育振興事業団	
施 設 名	守山市市民文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	3,028	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	3,028	(千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

### (3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ルシオール AKF 秋色	2020年11月29日	出演：松井慶太（指揮）大阪交響楽団 一部公演、新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	4,000
		大ホール		実績値	329※
2	ルシオール街かどコンサート vol.22、23	2021年2月14日	出演：飯嶋幸子、的場正剛、筈井美貴 7月もしくは8月の公演は新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	70/1公演 (280)
		小ホール		実績値	130※
3	ルシオール音楽塾（第19～21回）	2020年8月8日、9月13日、10月17日	講師：岡田暁生、中村孝義、青山登志和 出演：イリーナ・メジューエワ、日本センチュリー交響楽団メンバー他	目標値	150（1講座）（合計450）
		小ホール		実績値	279
4	中山道・守山宿 旅への誘いコンサート（vol.11～vol.12）	2020年12月19日	出演：水野奈美、東桂子 vol.11は新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度に延期。	目標値	200/1公演（合計400）
		小ホール		実績値	69※
5	ルシオール・リサイタルシリーズ	2021年1月9日	出演：小林愛実 6月公演は新型コロナウイルス感染症の影響により中止	目標値	400/1回 200
		小ホール		実績値	132※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

市民ホールが行う事業のミッションを、①人間の身体的能力、知性と感性の可能性へ挑戦する優れた実演芸術を提供する、②市民が文化芸術の担い手となる、③守山に文化芸術の創造力をプロデュースし、アーティストを育てる、④守山の歴史や地域資源を活かす、⑤長期的・継続的な取組を行う、の5点とし、これに沿って守山市の文化芸術の基盤を作るための普及啓発事業として「ルシオール AKF 秋色」「ルシオール音楽塾」「中山道守山宿旅への誘いコンサート」「ルシオール街かどコンサート」のを組み立てた。

さらに、上記の普及啓発事業で、クラシックファンの裾野を一定拡大していく中で、本格的な公演を求める声が多くなり、ルシオールシリーズの次のステップとしてフルタイム（2 時間）の本格的なリサイタル公演「ルシオール・リサイタルシリーズ」を加えた5事業を組み立てたが、令和2年2月からの長期に亘る新型コロナウイルス感染症の影響により当初からの計画の変更を余儀なくされた。

さまざまな公演がコロナ禍で中止となるなか、クラシック公演については徹底した感染症対策を実施し、早い段階での再開が可能であったことから、全公演中止ではなく内容の見直し、会場の変更や一部中止で済み、また、新しく動画配信への取り組みもスタートさせることができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

守山市は若い世代の割合が高く、教育・子育て環境の充実は市の重要な課題となっている。「第5次守山市総合計画」では、文化・芸術は、市民が真にゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を実現していくうえで不可欠なものであり、文化・芸術の振興と、市の経済活動やまちづくり活動は密接に関連し合うと位置づけられている。

「守山市教育行政大綱」では、1年を通して、子どもから大人まで誰もが気軽に本格的な文化・芸術に親しめる機会を設ける」と規定されている。これに基づき市民ホールにおいて、子どものための事業や実演芸術の普及啓発事業が始まることとなった。

0歳児から鑑賞できる子どものための事業として「ルシオール AKF 秋色」、地域の公民館や図書館など身近な場所で気軽にクラシック音楽を聴ける「街かどコンサート」、知的なアプローチを望む人たちに応える「ルシオール音楽塾」、地域資源、ふるさとの文化資産等の再発見と関連づける「旅への誘いコンサート」の4つの事業で助成事業を構成し、この他に市主催で当事業団が共催する「ルシオール アート キッズ フェスティバル」では、市内文化団体や経済団体等と協働することで、市の文化的、社会的、経済的課題に応えようとしている。

また、新しくスタートした「ルシオール・リサイタルシリーズ」においては、世界的に活躍し、大都市圏でしか鑑賞ができないアーティストを地元のホールに招くことで、市民文化会館への価値を再認識することができ、近隣府県からの来場者もあり、ホールの知名度を高めるきっかけになったと考えている。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

新型コロナウイルス感染症の影響による、一部公演中止・規模縮小となったことにより、入場者は目標値 5,530 人に対して、実績 939 人となった。

#### 【ルシオール AKF 秋色】

平成 26 年度からの継続事業で 0 歳児から楽しみ、クラシックコンサートのデビューの機会を提供している。音楽ワークショップの開催など、大阪交響楽団メンバーや様々なアーティストの出演により、子どもたちやファミリー層が楽しみながら実演芸術に親しめる機会を作っているが、新型コロナウイルスの感染防止のため、ピアノワークショップを含めた小ホールの「音の遊園地Ⅷ」をはじめロビーでの鑑賞無料参加型コンサート、ワークショップ、模擬店の開催を中止し、大ホールの公演のみの開催とした。

コロナ禍で多くの公演が中止となる中、公演を心待ちにされている大人も楽しめるように【特別編】と題して、幅広い世代が楽しめるようにプログラムを聞きなじみのある映画音楽で構成することで、新型コロナウイルス感染症による休館後、初めて開催する大ホールの自主公演であったが、329 人の来場があり、アンケートによる公演への満足度も高い（大変良い・良いが 83%）事業となった。

#### 【ルシオール街かどコンサート】

2 回 8 公演の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で 1 公演のみとなり、また市内他会場での開催が困難なことから、市民ホール・小ホールでの公演としたが、来場者は 130 人で客席を半減していた小ホールは、ほぼ満席となった。また、公演の一部を YouTube において配信し、「公演を届ける」という街かどコンサートのコンセプトを崩すことなく実施することができた。

#### 【ルシオール音楽塾】

実演芸術に対し知的アプローチを求める人たちのニーズに応えるとともに、優れた実演を提供しようとするもので、目標値 450 人に対し実績値 279 人と参加者数は目標に達しなかったが、参加者の満足度も高い事業（アンケートでは、大変良い・良いが 84%）として定着してきている。

第 18 回は新型コロナウイルス感染症による休館後、初めての事業であり、公演後のお客様からも公演の再開を喜ぶ声が多数寄せられ、聴衆の熱気ある期待の中で実施することができた。

#### 【中山道守山宿 旅への誘いコンサート】

地域資源や歴史等とクラシック音楽を関連付けたコンサートにすることによって、クラシック音楽への関心を高めるとともに、地元の魅力を再認識することにつながった。

また、ワンコインで気軽に来られるコンサートとしているが、今回「旅への誘いコンサート」へ初めて来場された方が 50%という結果からその目標は一定達成できたと考えている。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で vol. 11 が中止となり、目標値 400 人に対して、実績値 69 人で目標には届かなかった。

#### 【ルシオール・リサイタルシリーズ】

世界的に活躍しているアーティストによる最先端の演奏を提供することができた。また、入場者の目標は 200 名であったが、感染症対策のため客席を半数にして開催し、最終的には完売することができた。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【事業期間】

「ルシオール AKF 秋色」、「ルシオール音楽塾」については、当初の計画通りの時期に実施することができた。

「ルシオール街かどコンサート」、「旅への誘いコンサート」、「リサイタル・シリーズ」の3事業は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年6月～8月までに予定していた公演は中止としたが、2020年12月～2021年2月までの公演は当初の計画通り実施できたが、客席は半数の設定としている。

#### 【事業費】

事業費については当初予算8,163,000円であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で公演内容を縮小、一部中止となったため5,555,000円に変更した。

収入について当初予算は2,290,000円に対し1,118,300円となり△1,171,700円となった。

今後の課題として、有料入場者数を増やし収入を増やす一層の努力が必要である。



【ルシオール AKF 秋色】



【ルシオール音楽塾】



【旅への誘いコンサート】



【リサイタル・シリーズ ポストトーク】

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

実演芸術において創造性を発揮するためには、優れた作品を優れた演奏で提供することが基礎となる。実演家の起用に当たっては、日帰り圏からが望ましいという現実的な事情も含め、特に関西圏での創造力の蓄積に寄与できることを考慮している。このため、関西圏で活躍する若手・中堅の演奏家を基本に、プロデューサーが事前に実演で確認することを原則に優秀な人材の起用に努めている。

オーケストラについては、日本センチュリー交響楽団と協力協定を結び、「ルシオール音楽塾」でのアンサンブル公演への出演により、オーケストラの団員個人が能力を発揮する場を設け、聴衆にも団員個人に注目できる機会をつくっている。

また、滋賀県ではびわ湖ホールによるオペラ制作が実演芸術の創造活動の中心であり、びわ湖ホール声楽アンサンブルは関西での声楽家育成の重要な団体となっていることから、OB・OGであるソロ登録メンバーの中から、「ルシオール音楽塾」「ルシオール街かどコンサート」に数人ずつ優れた人材を起用し、びわ湖ホール声楽アンサンブルが育てた人材を更に飛躍させる機会とすることができた。

今年度新しくスタートした「ルシオール・リサイタルシリーズ」では、世界的に活躍し、今後も活躍が期待されるアーティストを招くことにより、市民文化会館への価値を再認識するとともに、普段触れることの少ないトップアーティストの演奏機会を提供することができた。

また、地方都市においては、日常的にクラシック音楽の実演に接する機会が少ないことから、自分たちには縁がないものと敬遠する傾向が見られる。このため、コンサートでの奏者のトーク、講師の解説、判りやすい基礎的な曲目解説の掲載のほか、「旅への誘いコンサート」では、最初の10分間で、演奏される曲目と何らかの関連のある地域の歴史資産や自然を取り上げ、市民の日常と関連づけるようにしている。これはアンケートでも好意的な反応が多く見られた。さらに、「ルシオール・リサイタルシリーズ」においては、音楽評論家の司会によるポストトークを実施し、アーティストの人となりを知る事により、クラシックファンやアーティストのファンを新たに獲得することができ、今後のシリーズの来場者を増やすきっかけとなったと考えている。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

守山市は、中山道守山宿の歴史に代表されるように歴史遺産にも恵まれ、また、守山市文化協会をはじめとする市内文化団体の活発な活動など、文化振興の土壌は豊かである。しかし、気軽なエンターテインメントがあふれ、テレビやウェブ上でも情報が氾濫している昨今では、高度な修練を介して、精神を集中させるなかで新たな価値を創ろうとする実演芸術の場が敬遠されるという傾向も見られる。

市内には一定の熱心な、いわゆるクラシックファンの存在が認められるが、更にこれを広げていくには、コンサートという音楽の場を多様な形にし、聴衆の側からの様々なアプローチが可能なものにする必要がある。

「ルシオール AKF 秋色」では、今年度のみ子どもたちだけにフォーカスするのではなく、幅広い世代が楽しめるようにプログラムを聞きなじみのある映画音楽で構成した。また 2020 年はベートーヴェン生誕 250 周年記念の年でもあるので、ベートーヴェン：交響曲第 7 番もプログラムに取り入れることにより、親子連れだけでなく、祖父母を含めた三世代で来場される姿も多く、来館層の幅をひろげることが出来た。

「ルシオール街かどコンサート」では、通常は公民館のような身近な場所を会場にしており、『音楽を身近に届ける』ことをコンセプトにしているが、今回はコロナ禍により劇場まで足を運んでもらうこととなってしまったが、予想を上回る来場者があり、守山市においてもクラシックファンが定着し、演奏を心待ちにされている方が多いことを再認識することができた。

「ルシオール音楽塾」は、実演に加えて、音楽学者や評論家などが解説をすることで、音楽を幅広い視点から捉えることに資するとともに、「質問コーナー」のような聴衆と講師、演奏者との双方向性のあるセッションはアンケートなどでも好評を得た。

「中山道守山宿 旅への誘いコンサート」では、演奏される音楽に関連づけた歴史遺産や自然をテーマに取り上げ、演奏の前に地元の関係者が紹介をしている。クラシック音楽に関心のなかった関係者も来場しており、幅広く関心を喚起することに役立った。

「ルシオール・リサイタルシリーズ」はルシオールシリーズとして新たに立ち上げた新シリーズで、コロナウイルス感染拡大防止対策で客席を半減したものの、チケットを完売することができた。またアンケート結果からも市民ホールの公演に 2 回以上参加したことがあると回答した人が全体の半数以上を占めており、上記の他の普及啓発事業をベースとし、さらにステップアップした事業を市民に届けるという目標を達成できていると考える。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

「守山市文化振興アクションプラン（平成 26 年度策定）」において、守山市民ホールは市の文化振興の中核施設として位置づけられ、それにふさわしい事業に取り組むとともに、その過程で組織体制としてはプロデューサー（非常勤）とディレクター（常勤）を置くこととされた。平成 26 年度からはプロデューサー（非常勤）が、平成 28 年度からはディレクターに相当するプロパー職員が置かれている。当該プロパー職員については、2 か月間びわ湖ホールに研修派遣し専門職員としての資質を磨き、その後助成事業を始めとするアートマネジメントを担当している。「ルシオール街かどコンサート」「ルシオール音楽塾」などの助成事業も、上記アクションプランに基づき始まった事業である。平成 31 年度は若手人材育成の取り組みとして、クラシック経験者の舞台技術員（新卒）を有期契約職員として採用した。

また、助成事業の執行を通じて、びわ湖ホールや日本センチュリー交響楽団とのネットワークの形成、情報やノウハウの交換ができています。また、守山市が主催で当事業団が共催する音楽イベント「ルシオール アート キッズ フェスティバル」を市や文化団体、経済団体と協力して毎年開催しており、音楽公演の企画や運営については当財団が担当し実施している。助成事業と併せて、守山市の文化振興を牽引する事業となっている。

これら助成事業を中心とした主催・共催事業については、その結果を組織内部で評価し、見直し、改善、広報への反映など、次年度に向けて PDCA サイクルを回すこととし、自主事業検討会議（年 2 回開催）、事業団の経営会議（毎月開催）や各施設のグループリーダーによる会議（毎月開催）で評価、検討を行っている。

守山市との指定管理契約については、前期（平成 26 年度～30 年度・非公募）に引き続き、これまでの運営管理に対する市の積極的な評価のもとに、（公財）守山市文化体育振興事業団が平成 31 年度～令和 5 年度も非公募で継続して受託することとなった。事業団としては、中期経営計画（平成 29 年度～平成 33 年度）を定め、計画的に事業を推進している。この中期経営計画については、グループリーダーを中心に次クール（令和 4 年度以降）の素案が作成され、更新される予定である。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行により、令和 2 年 2 月以降の主催・共催事業・貸館の中止を余儀なくされ、現在も文化芸術活動へ多大な影響を与えているが、令和 3 年度は守山市民文化会館開館 35 周年の記念の年であることから、「with コロナ」においても高い水準の文化芸術を提供し、市民ニーズに応えるべく様々な事業を計画している。